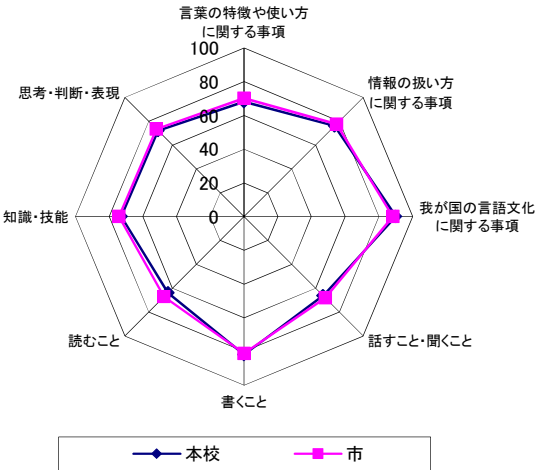


宇都宮市立古里中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に 関する事項	68.2	70.2	64.7
	情報の扱い方に 関する事項	76.0	77.6	71.1
	我が国の言語文化に 関する事項	90.1	88.3	79.1
	話すこと・聞くこと	66.3	68.2	67.4
	書くこと	81.8	81.1	71.7
	読むこと	63.9	67.2	61.3
観点別	知識・技能	72.8	74.2	67.9
	思考・判断・表現	72.2	73.5	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

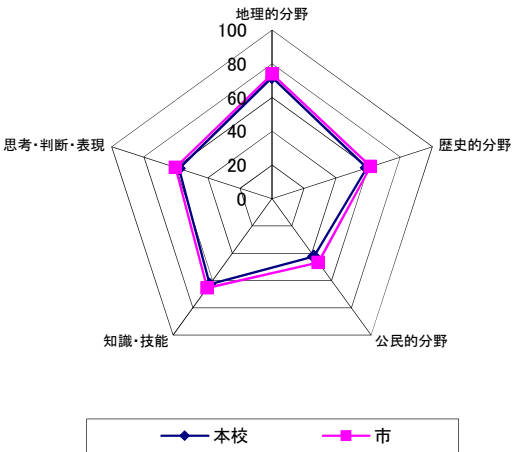
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に 関する事項	○漢字の書きでは、市の平均を上回っている。 ●漢字の読みでは特に訓読みで市の平均を下回っている。 ●用語の活用や古典、敬語が市の平均を下回っている。 ●全体で市の平均を0.7ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きについては、ミニテストの継続を図る。 ・文法事項については、2年生までの内容を十分に復習する時間を増やし、問題演習を行う時間を確保する。
情報の扱い方に 関する事項	○目的や意図に応じた表現を確かめて、文章全体を整える問題に関しては、市の平均を約3ポイント上回っている。 ●論理の展開のし方を捉える問題に関しては論理の展開について、市の平均を約7ポイント下回っている。	・文章を読み、論理の展開を抑える内容を授業の中で展開する。目的や意図に応じた表現については、自己の考えをまとめる時間を今後も確保する。
我が国の言語文化に 関する事項	○現代語訳を手掛かりに古典を読む問題では、市の平均を6.8ポイント上回っている。 ●歴史的仮名遣いの理解については、市の平均を2.7ポイント下回っている。	・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す方法については、今後も授業の中で力を入れていく。 ・訳については、その語の持つ意味について、今後も定着を図っていく。
話すこと・聞くこと	○自分の考えが分かりやすく伝わるよう表現を工夫する力については、市の平均を1.4ポイント上回っている。 ●話の展開を予想しながら聞く問題では、市の平均を5.9ポイント下回っている。	・話の聞き方については、普段の授業においても意識を高めるように指導を行う。また、メモの取り方、必要箇所の見分け方について、自己判断ができるような指導の工夫を図る。
書くこと	○レポートを書く項目では、情報と情報との関係について理解する項目、目的や意図の応じた表現で文章全体を整える項目において、市の平均を大きく上回っている。また、2段落構成や意見文に対する自分の考えと理由についても市の平均を上回っている。 ●自分の考えを分かりやすく伝えるための工夫や自分についての様子については、市の平均を1ポイント下回っている。	・作文の作成については、指定された条件を捉えて書けている。 ・自分の考えを分かりやすく伝える工夫については、考えや根拠について明確にしていく必要がある。授業では、考えやそれに伴う根拠を明確にするよう徹底していく。
読むこと	○文学的文章については文章の表現の仕方について評価している項目で市の平均を3ポイント上回っている。 ●説明的文章については、全項目とも市の平均を下回っている。	・文章問題については、本文を正確に読むことともに、問題を正確に読み取る力を確実につけていく必要がある。 ・答え方や表現の工夫、要約に焦点を当てた授業展開を行っていく。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	72.0	74.0	67.9
	歴史的分野	59.1	61.5	56.1
	公民的分野	42.5	46.9	40.7
観点別	知識・技能	62.8	65.5	60.6
	思考・判断・表現	58.0	60.2	52.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

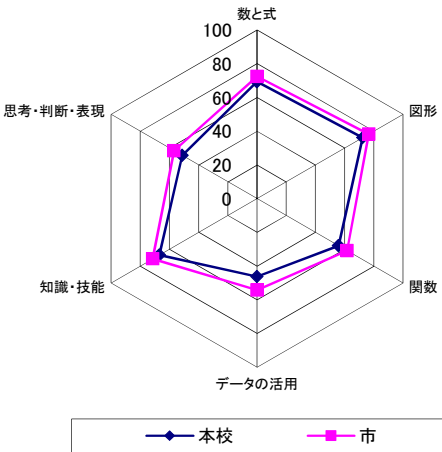
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○世界・日本の気候の特徴などの事項は理解度は、市の平均を上回っている。 ○九州、中国・市国地方における農業の特徴とかかわりの部分でも、市・全国の平均を大きく上回った。 ●市の平均を2.0ポイント下回っている。 ●日本の産業全体を俯瞰する問題の正答率は、市より3.9ポイント、全国より0.7ポイント下回っている。 ●地理的な分野の総合問題(複数の資料から考察)になると、極端に正答率が下がってしまう。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎、基本の定着に向けて、一問一答問題などを徹底的に行わせる。 ・1年生で学習する、世界の気候(海流や雨温図なども含む)の基礎知識が定着していない。中学地理の基盤になっていくので、1年生の学習にてくり返し反復学習を行う。 ・複数の資料の読み取りができていない。提示されている資料から「何を読み取る必要があるのか」を授業の中で解説し、問題演習を多く取り入れる。
歴史的分野	○江戸時代の大名統制や改革など狭い範囲の分野で、市の平均を上回った。 ●市の平均を2.4ポイント下回っている。 ●世界の古代史が区別がついていない。また、資料を読み取る問題の正答率が全国・市よりも低い。 ●日本の近世の範囲が全体的に市の平均よりも低い。	・1年生で学んだ内容の正答率が低い。授業ごとの振り返りと小テストなどを行い基礎・基本の定着を図る。 ・近世の正答率が全体的に低い。時代のつながりを意識させるように比較資料を用いたり、日本と世界のつながりがわかる資料を用いたりして学習させたい。(近世は範囲が広いので、前半・後半などのように分けて学させる必要があると考えた。) ・日本と世界の動きを横のつながりで考えさせるために、日本と世界の歴史年表作成などの授業を実践する。
公民的分野	○日本国憲法の基本原則は多くの生徒が理解しており市の平均を10.2ポイント上回っていた。 ●市の平均よりも4.4ポイント下回っている。 ●日本国憲法の内容把握問題の正答率が市より9.6ポイント下回っている。 ●人権の種類に関する問題の正答率が低い。 ●地理・歴史と同様に、資料を背景に論述する問題の正答率が低い。	・憲法の原則は理解できているので、それぞれの原則がどのような意義をもっているのか理解させる。 ・人権の種類を答えられる生徒は多い。しかし、分類や内容一致などの正誤問題、資料との関連問題の正答率が極端に低い。教科書に出てくる資料を丁寧に解説していく。 ・授業で学ぶ基礎知識を用いて、身近な生活における出来事と関連付け、自分の言葉で表現させる工夫を行う。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	69.4	72.5	71.3
	図形	72.3	76.5	68.1
	関数	55.8	61.7	50.3
	データの活用	46.2	54.2	43.5
観点別	知識・技能	66.9	71.5	66.7
	思考・判断・表現	51.2	56.9	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

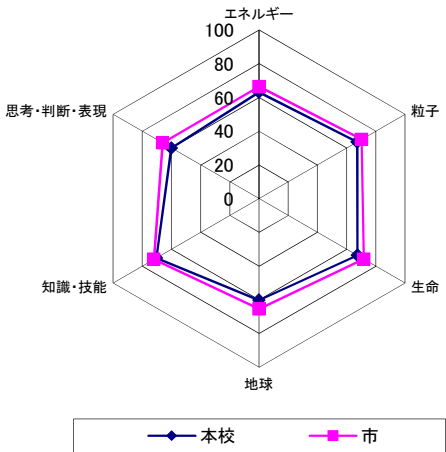
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○同類項をまとめる問題や公式を使った式の展開など、基本的な問題については市のポイントを上回っている。 ●市の平均を3.1ポイント下回っている。 ●与えられた文章題に対して、2次方程式を立式する問題では市を13.4ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算を着実に定着させるために、今後も個別指導や反復練習などの充実を図る。 ・2次方程式の解き方を再確認し定着を図る。1年生の学習の1次方程式から関係を見つけて方程式をつくる練習をさせ、連立方程式、2次方程式と発展していき定着させる。
図形	○回転移動させた図形が重なる部分の角度を求める問題では市の平均を3.2ポイント上回った。 ●市の平均をポイント4.2下回っている。 ●多角形の内角の和の性質を理解しているかを問う問題では市の平均を9.6ポイント下回った。	・基本的な図形の作図は1年生の時に学習した。線分の垂直二等分線、垂線、角の二等分線など基本的な作図の方法を再確認するとともに、条件を満たす点を求めることにそれらを活用することで理解を深めさせる。 ・図形の移動についてその意味や特徴を再確認する。
関数	○グラフを読み取り、総費用を求める問題では、市の平均を0.1ポイント上回った。 ●市の平均を5.9ポイント下回っている。 ●グラフを用いて説明する問題では正答率が半分を下回った。	・関数についての基本的な内容、xとyの関係を表す表、式、グラフの関係などをしっかりと理解させるとともに、発展的な課題に取り組ませる機会を多くもち、基本的な知識、技能を活用することで、その面白さや便利さを体験させる。
データの活用	○確率を求める問題では、市を3.8ポイント上回った。 ●市の平均を8ポイント下回っている。 ●四分位範囲を求める問題では市の平均を18.5ポイント下回った。 ●ヒストグラムを読み取り、階級値を選んだり説明する問題ではどれも市のポイントを下回った。	・用語の意味や求め方を再確認する。 ・資料を活用し、説明する力を身に付けさせるために、授業の中で説明を書いたり、説明し合ったりする時間を十分に確保する。 ・学習した内容を活用する力を高めるために、身近な事象やゲームなどを取り上げ、興味・関心をもたせる工夫をしながら課題に取り組ませる。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	63.1	66.5	61.2
	粒子	67.3	70.2	62.3
	生命	67.4	71.8	65.7
	地球	60.2	65.4	61.0
観点別	知識・技能	70.3	72.0	67.3
	思考・判断・表現	60.1	66.0	58.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

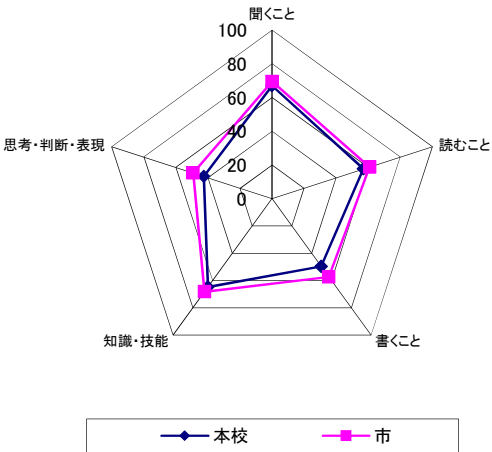
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、市の平均より3.4ポイント低い。 ○音の波形から、1番高い音を指摘する設問では、市の平均より3.2ポイント上回っている。 ○音が伝わりにくくなることを推測する設問では、市の平均より3.2ポイント上回っている。 ●慣性によって、等速直線運動が起こることを推測できる設問では、市の平均より10.1ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・視覚的に見えにくい領域のため、実験時間を十分に確保し、現象を見て実感させる授業を行っていく。 ・班員と考えを共有していく中で、現象や事物についての思考を深めていく。 ・関連のある現象や事物を例示することで、身近なものとして捉えられるよう指導を工夫していく。
粒子	平均正答率は、市の平均より2.9ポイント低い。 ○メスシリンダーの目盛りを正しく読みとる設問では、市の平均より4.3ポイント上回っている。 ●BTB溶液の色から、液の性質を区別する設問では、市の平均より6.5ポイント下回っている。	・粒子領域は、実験によって変化が見て分かるものが多いため、実験を有効に取り入れるとともに、考察する時間を確保して思考力や判断力を付けていけるようにする。 ・物質の成り立ちが理解できるよう、原子や分子、イオンのモデルを使って考える時間をつくり、視覚的に粒子についてイメージができるように指導していく。
生命	平均正答率は、市の平均より4.4ポイント低い。 ○シダ植物のなかまの設問では、市の平均より0.4ポイント上回っている。 ○消化のしくみの設問では、市の平均より0.8ポイント上回っている。 ●柔毛や根毛のつくりの設問では、市の平均より14.4ポイント下回っている。	・生命領域では知識の習得が主な学習活動になりがちである。知識を得るだけでなく、共通点や相違点に気付かせたり、それらをもとに自分で分類したりする活動を取り入れていく。 ・生物の体のつくりについて、利点や理由について考える時間をとり、納得しながら学習に取り組めるように指導していく。
地球	平均正答率は、市の平均より5.2ポイント低い。 ○寒冷前線の記号の設問では、市の平均より5.7ポイント上回っている。 ●無色鉱物の設問では、市の平均より13.7ポイント下回っている。 ●マグマの粘り気と山の形の設問では、市の平均より13.8ポイント下回っている。	・地球領域に関する学習は、スケールの大きな内容が多く、授業で再現することが難しい現象が多い。そこで、映像資料やイメージ動画など1人1台端末をを有効活用し、実感を伴った理解が得られるような授業展開を行う。 ・火山の学習では、鉱物の特徴と冷え固まっていく時間との関連性について、整理できるように指導していく。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	66.9	69.4	63.8
	読むこと	57.1	60.8	55.6
	書くこと	49.7	57.5	47.8
観点別	知識・技能	64.8	68.3	64.1
	思考・判断・表現	42.6	49.2	37.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は、参考値は上回ったが、市の平均より低い。 ○対話の内容を聞き、その内容を理解して応答する問題の正答率は、市の平均と同等あるいは上回っている。 ●英文を聞き、内容や要点を捉える問題では、市の平均を下回っている問題が多い。情報量が多い英文では、正答率が低くなっている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業のウォームアップなどで興味をひくような話題を取り上げた対話活動をするなど、生徒が場に応じた応答に自然に慣れるよう工夫する。 ・まとまった英文を聞き取って内容を把握することを苦手とする生徒が多いので、ALTとの対話活動や音声教材では比較的長い英文を聞かせ概要を捉える活動を増やしていく。また、聞き取り問題の解き方のコツについても授業内で触れ、ポイントを抑えて問題に取り組めるようにする。
読むこと	平均正答率は、参考値は上回るが市の平均より低い。 ○対話文の流れと資料の情報・条件をもとに適切な答えや発言を選ぶ問題では、正答率が高くなっている。 ●対話の中で基本的な語形・語法を理解して使う問題は正答率が低く、特に現在完了の文を使う問題では市の平均を大きく下回っている。	・長文を読む内容の授業では、英文の内容をいかに効率的に捉えて問いに答えるのかを練習することで、まとまった英文を読むことに慣れさせるとともに、苦手意識を軽減していく。 ・2年生中盤から3年生前半の英文法事項についてはつまずく生徒が多いので、既習事項のドリル練習を授業に位置づけるなど繰り返し学習することで基礎の定着を図る。
書くこと	平均正答率は、参考値は上回るが市の平均より低い。 ○単語の並べ替えの問題の正答率は比較的高く、4問中3問で7割近く取れている。 ●対話の流れに沿った英文を正確に書く問題では、全国正答率や市の平均と同様、極端に正答率が低い。	・学習した文法事項や語彙を活用して場や条件に合う英文を書くことができるよう、さまざまなテーマで英作文を書く演習を多く取り入れていく。 ・英語で書きたいことを正確に書くことができるよう、ALTやクロームブックを有効に活用しながら書く習慣を身に付けさせる。 また、話す活動で使用した言語材料なども、書いて残しておくなどして、自分の身近な英文に慣れさせていく。

宇都宮市立古里中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学び合いを通した確かな学力の育成	・意見交換や議論の場の設定 ・生徒自ら課題を見つけ探究する場の設定 ・自分の考えや感じたことを自分のことばで書いて伝える活動の設定	・「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」の肯定的回答は、2年生では市の平均を上回ったが、1・3年生では下回った。ただし、昨年度のデータと比較すると、2・3年生において肯定的回答の値が上昇しており、改善傾向がみられる。
家庭学習を中心とした自主学習の充実	・家庭学習ノートの提出による自主学習の習慣化 ・学習計画表の作成と個に応じた指導	・「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」の肯定的回答はいずれの学年も市の平均を上回った。 ・「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」の肯定的回答は2年生で市の平均を上回ったが、1・3年生では下回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

今後も継続して「確かな学力の育成・向上」や「学び合いを通した学習意欲の向上、基礎基本の定着及び思考・判断・表現力等の育成」を重点目標として取り組んでいく。そのために、家庭学習の充実や学校教育全体を通した言語活動の充実に力を入れていきたい。「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」生徒が市の平均には及ばないものの、各学年とも前年度より増えているのはこれまでの取り組みの結果であると考えられる。今後も引き続き学校教育全体を通して取り組んでいきたい。家庭学習の取り組みは、おおむね良好な調査結果であった。こちらも家庭学習の習慣化を目指して、毎日家庭学習ノートを利用した学習を指導してきた結果と考えられる。今後はその内容を充実させるとともに、主体的な学びにつながるよう、個に応じた学習指導を継続していく。